



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和 5 年 6 月 2 8 日

岡 山 大 学

横井篤文副学長・ユネスコチェアホルダーが仏勲章を受章
—地域から地球全体へのウェルビーイングに貢献する国際的な活動を評価—

(概要説明)

2023年6月19日、フランス・パリ市の世界遺産マドレーヌ寺院にてフランス政府公認（1932年制定）の「フランス社会功労奨励章（アンクラジュマン・ピュブリック）」日本代表部の叙勲式が開催され、本学の横井篤文副学長・教授、兼ユネスコチェアホルダーが「月桂樹金製銀章（旧四等オフィシエ）勲章」を受章いたしました。

横井副学長は、これまでの長きに渡る持続可能な社会に資する国際教育と社会イノベーションを踏まえた社会貢献の取り組み、そして岡山大学に着任してからは、特に、パリを拠点とするユネスコの「持続可能な開発のための研究と教育」に関するユネスコチェアを通じた世界的な当該活動、国連平和大学での地球憲章国際審議会委員としての地球全体へのウェルビーイングに資する平和と博愛にかかる教育及び社会貢献活動、さらに One Young World Japan Committee 理事としての地域と世界をつなぐ若者のエンパワーメントの取り組みなど、地域から地球社会まで広範に渡る平和的かつ愛他的な活動が総合的に評価されたことにより、本勲章を授与されることとなりました。

※「フランス社会功労奨励章（ENCOURAGEMENT PUBLIC:アンクラジュマン・ピュブリック）」とは、1932年にフランス共和国政府の承認を得て制定され、昨年90周年を迎えたフランスの名誉ある叙勲制度で、社会公共、専門職業分野、芸術分野において、また人類愛、博愛の面でフランス、海外フランス地域及び諸外国で功労貢献した個人又は団体に対しその功労を奨励する褒章であり、様々な形で社会公共的で博愛的な活動を普及発展させるに最も望ましいと判断したものに贈られる功労勲章として定められています。

等級は、一等から五等まであり、現在は、一等グランコルドンは、大章、二等グランオフィシエは、「特別」胸付用「金」勲章、三等コマンドゥールは、王冠付金章、四等オフィシエは、月桂樹金製銀章、五等シュバリエは、月桂樹銀章と呼びます。

日本人では、過去に画家の岡本太郎氏や俳優の三船敏郎氏など各界の著名人が受勲しています。この度の叙勲式では、フランス社会功労奨励章協会の会長代理で総本部事務総長、元フランス大統領官邸閣僚事務官のNicola BEDEL（ニコラ・ブデル）氏と日本・仏国代表の立松弘臣氏より、横井副学長を含む3名に月桂樹金製銀章が授与されました。

※参考：フランス語の公式サイト

<https://encouragement-public.org/>



PRESS RELEASE

※横井篤文副学長の主な略歴と業績

【略歴】

岡山大学 副学長（グローバル・エンゲージメント担当）・教授／ユネスコ（国連教育科学文化機関）チェアホルダー

日本、米国、オランダ、南アフリカに在住し、建築・都市計画・持続可能な開発を学ぶ。大手建設会社勤務、欧州大学院留学、アフリカ都市スラムに関する在外研究、社会イノベーションと国際教育に関する財団設立等を経て2015年岡山大学上級グローバル・アドミニストレーターに着任。2017年副理事（国際担当）、2018年副学長（海外戦略担当）、2021年上席副学長（特命（グローバル・エンゲージメント戦略）担当）、グローバル・エンゲージメント・オフィス・ディレクター、教授を経て、2023年より企画・評価・総務担当の副学長（グローバル・エンゲージメント担当）に就任。2019年より、アジアで唯一の「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコチェアホルダーを務める。

【業績】

横井副学長は持続可能な地球社会の実現のため、地域から地球全体へのウェルビーイングに資するSDGs達成へ向けた本学のグローバル・エンゲージメント戦略を全学的に進めてきました。特に教育の国際化と社会イノベーションの推進及びユースのエンパワーメントについて国内外の多様なステークホルダーと共に取り組んできました。2015年より世界経済フォーラムで発足宣言された190ヶ国以上の次世代グローバル・リーダーが集うOne Young World サミット（本部：英国・ロンドン）の日本委員（現、一般社団法人One Young World Japan Committee 理事）を務め、2018年には皇太子同妃両殿下御成婚を記念して始められた「国際青年交流会議」（主催：内閣府、一般財団法人青少年国際交流推進センター）にSDGsに関する基調講演および皇太子同妃両殿下の視察を賜ったディスカッションのファシリテーターとして招待参加しました。また、2019年にアジアで唯一の「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコチェアの第二代チェアホルダーに就任、国連・国際機関との連携と共創を強化しながら、2020年には国連平和大学にある地球憲章国際本部（ECI、Earth Charter International）より地球憲章国際審議会委員の世界の1人に選出。同年にそのグローバルな活動の功績に対してもECIからCertificate of Recognitionを授与されています。また、2022年には、英国王立技芸協会（RSA, The Royal Society of Arts）から、「社会の変革のために卓越した技芸上の業績を残した全世界の個人」を対象として贈られる荣誉称号「ロイヤル・ソサエティ・オブ・アーツ・フェロー（FRSA, Fellow of the Royal Society of Arts）が授与されています。

※参考：ユネスコチェアとは、

ユネスコが1992年に開始したユニツイン（UNITWIN: University Twinning）／ユネスコチェア（UNESCO Chairs）とは、知の交流と共有を通じて、高等教育機関および研究機関の能力向上を目的とするプログラムです。高等教育機関の国際的な連携・協働を促進することにより、人的・物的資源のシンクタンクとして、また教育・研究機関、地域コミュニティ、政策立案者間の橋渡的存在としての役割を担うことを目指します。2022年12月時点で、914のユネスコチェアと43のユニツインを認証しています。日本では、10のユネスコチェアと2つのユニツインが認められていま



PRESS RELEASE

す。

※参考：地球憲章国際本部（ECI, Earth Charter International）とは、

中米コスタリカ首都サンホセ市（岡山市の姉妹都市）の国連平和大学に設置。1992年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国際連合会議（通称：地球サミット）」の事務局長を務めたモーリス・ストロング氏と、ミハエル・ゴルバチョフ旧ソビエト連邦初代大統領が地球憲章を作成するという課題を取り上げ、彼らを中心にロックフェラー族のステイブン・C・ロックフェラー氏や広中和歌子元環境庁長官らノーベル賞受賞者などを含む24人の世界委員から成る地球憲章委員会が結成されました。1997年3月にブラジルのリオで開催されたRio+5にあわせて第一回地球憲章委員会が開かれ、2000年3月にパリのユネスコ本部で開催された地球憲章委員会において、最終的な「地球憲章」が完成。同年6月にオランダ・ハーグの平和宮（Peace Palace）で、ベアトリクス女王ご臨席のもと正式に発表されました。「地球憲章」は現在59の言語で翻訳され、世界の多くの国と地域で用いられており、さらに2019年に開催された第40回ユネスコ総会では、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）に関する新たな枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」の倫理的な枠組みとして「地球憲章（Earth Charter）」を推奨。さらなる統合的な取り組みと推進が期待されています。

＜お問い合わせ＞

岡山大学グローバル・エンゲージメント・オフィス
副学長・教授 横井 篤文
（電話番号）086-251-8326



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。